

FX



虎の巻

 TEAMハロンス



外為どっとコム

はじめに

為替市場の攻め方はそれぞれ千差万別です。他の個人投資家が上手くいったからと言って、ご自身で同じようにできるかは分かりません。とはいえ、黙っていても身につきますので、自分に合った取引手法を地道に見つけ出すのが一番です。そして、それを見つげられた時には、他に言われぬ至福の喜びにも似た高揚感が沸き上がると思われます。

ここでは、TEAM ハロンズの経験談よりお勧めするトレードスタイルや為替市場の注意点を記載させて頂いています。ここに記したことが全てではありませんが、重要なものを厳選して掲載していますので、お役立ち頂ければ幸いです。

はじめに	1
為替市場の仕組み	3
為替市場とは（相対取引）	3
通貨の表記	3
通貨交換レートの実現	4
円高・円安って何	5
為替相場の変動要因	5
債券価格と利回り	8
為替市場の特徴	9
アジア市場の特徴と重要経済指標	9
欧州市場の特徴と重要経済指標	10
NY 市場の特徴と重要経済指標	10
トレードルールの作成	11
取引が容易になる	11
冷静な取引を保つ	11
長期の取引を可能に	12
資金管理	12
TEAM ハロンズの例	13
取引スタイル	14
短期取引	14
通常時の短期取引	14
経済指標時の取引	14
デイトレード	15
スイングトレード	15
らくらく FX 積立の活用	16
主な通貨の特徴	17
Q&A	21

為替市場の仕組み

為替市場とは (相対取引)

外国為替市場は日本円や米ドル、ユーロ、ポンドなど通貨を交換する市場で、株式などと異なり、取引所はありません。良く耳にする、東京外国為替市場とか、NY 外国為替市場などは、主に取引している時間帯の中心都市を使って、あえて区別して読んでいるだけです。

ただし、取引先によっての区分はあります。個人や企業が金融機関と行う取引（対顧客取引）のほか、金融機関同士が行う取引（インターバンク取引）に区分されます。

店頭 FX（外国為替保証金）取引では、顧客と FX 業者が直接取引（相対取引）を行います。FX 業者によって取引価格や、スプレッド、スワップポイントに差が生じるのは相対取引が理由だからです。

ここで、顧客からの注文を受けた店頭 FX 業者が何もしなければ、顧客の利益はそのままでは FX 業者にとって損失となってしまいます。しかし、それでは経営上問題が起こることもあります。そこで、FX 業者は顧客の注文に応じて、自らも銀行等の金融機関に対して、同様の注文を行い、リスクをヘッジしています。このヘッジ取引のことを、カバー取引といいます。

全ての FX 業者が同じようにカバー取引を行っているわけではなく、どのような頻度でどのような額をカバーしているかは、FX 業者の経営体力によって異なります。また、ディーラーが間に入って顧客の注文状況や相場を見ながらカバー取引を行っているところもあれば、ディーラーを置かずシステムで自動的にカバー取引を行っているところもあります。

通貨の表記

世界中にはたくさんの国があり、それぞれ独自の通貨を使用しています。各国の通貨表現には複数ありますが、金融業界では ISO（国際標準化機構）4217 の国際規格で定められた表記を使用します。

例：米ドル：USD

日本円：JPY

ユーロ：EUR

英ポンド：GBP

豪ドル：AUD

メキシコペソ：MXN

通貨交換レート の表現

次に、円とドルを交換するときいくらなら妥当なのかを考えてみましょう。例えば 1 ドルは何円になるかを考える場合に、米国において 1 ドルで購入できる商品があったとして、同じ商品が日本円では 150 円で購入できるとすると、この時の米ドルと円の交換レートは 150.00 円（1 米ドル = 150.00 円）となり、USD/JPY=150.00 円など表示します。

為替取引は通貨の交換ですので、円を基準にして、JPY/USD = 0.0067 ドルとしても問題はありますが、取引者同士で違う表記を使うと提示するレートが違って紛らわしいので、金融機関の取引では一般的に USD/JPY、EUR/JPY、EUR/USD など、通貨ペアの表示を統一しています。

**USD/JPY=150.00 円は 1 ドルが 150 円、
JPY/USD=0.0067 ドルは 1 円が 0.0067 ドル
どちらも経済的な効果は一緒、
でも、複数の表記は間違いやすいので、**

USD/JPY=150.00 円で表記を統一

このとき、左側の USD や EUR をベース通貨と呼び、右側の JPY や USD を決済通貨と呼びます。

**USD/JPY : USD（ベース通貨）/JPY（決済通貨）
EUR/USD : EUR（ベース通貨）/USD（決済通貨）
XXX/YYY = ベース通貨/決済通貨**

取引をする際には、左側のベース通貨（USD、EUR）を何通貨単位買うのか、売るのかを指示し、その時の支払いをどの通貨（決済通貨：JPY、USD）でするのかによって、交換レートが違ってくることになります。

円高・円安って何

円高とは「円の価値が上昇すること」で、反対に円安は「円の価値が下落すること」を意味します。例えば、USD/JPY = 150.00 円（1 米ドル = 150.00 円）のときから、時間がたつて USD/JPY = 130.00 円へ動いたとします。

当初、1USD で購入できる商品を日本円で支払うときは 150 円必要でしたが、今は 130 円で済むことになります。これは日本円の価値が上昇し、少額の円で同じものが購入できるため、円の購買力が上昇したことを意味しています。

逆のケースでは、1USD = 150 円から 170 円となり、1USD で買える商品を日本円で支払うと 170 円が必要になります。これは円の価値が下がったため、余分に支払う円が増加したことで、円の購買力が下落したことを意味しています。

円高 : USD/JPY : 150.00 円 → USD/JPY = 130.00 円

（円の価値が上がって、支払う円が減少する）

円安 : USD/JPY : 150.00 円 → USD/JPY = 160.00 円

（円の価値が下がり、支払う円が増加する）

表記上、交換レートが小さくなる場合が円高、交換レートが増える場合が円安となります。

為替相場の変動 要因

では、ここで為替相場ないしはレートはどのような要因で動くのかを考えてみます。結論的には、取引参加者の想定する取引期間や取引目的の違いにより各参加者が着目する材料が違うからです。取引参加者の理由や目的が様々ですので、着目する材料も多種多様となりますが、ある程度分類することは可能で、各期間での材料を大まかに分けると次のようになります。これらの材料で、投資家心理が楽観的になったり、悲観的になったりすることで為替市場は変動するのです。また、中長期の材料が短期取引に影響を及ぼしたり、またはその逆が起こったりと厳密に分けられない部分もありますので、ご注意ください。

短期材料-経済指標。指標が強い結果ならその国の通貨を買う、弱い結果なら通貨を売る。

指標を見る上では、指標の絶対値より市場コンセンサスからの強弱がより重要。

中長期 = 金融政策の方向性や金利差の動向。

継続的な利上げが見込まれる場合は当該国の通貨高、逆なら当該国の通貨安。

金利差拡大が見込まれるなら、通貨ペアの低金利側通貨が売られやすくなり、高金利側通貨は買われやすいです。

長期・超長期 = 国境を越えた資金の流れ

ちなみに、投資家心理が楽観的になるような相場環境をリスクオン相場、逆に投資家心理が悲観的になるような増場環境をリスクオフ相場などと表現します。

リスクオン

・先行きに楽観的なときで市場参加者が積極的にリスクをとれる局面（リスク許容度が高い）

・積極的な分散投資から、株価、資源国通貨、新興国通貨などが上昇しやすい一方で、安全資産とされる国債への投資が減少して債券価格は低下（金利上昇）しやすくなります。また、金利負担の少ない低金利国で借入れをして、高金利国の金融資産等で運用し収益を上げるような取引も盛んに行われます。（キャリー取引）。

キャリー取引

金利負担の少ない国（日本円）でお金を借りて、経済成長の高い国の通貨に変換して株式や不動産を購入して運用すれば高い収益性が見込める

※為替レートの変動がないと仮定した場合

リスクオフ

・先行きに悲観的なときで市場参加者が積極的にリスク回避する局面（リスク許容度が低い）

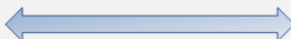
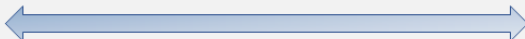
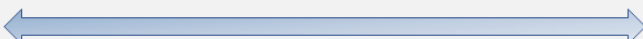
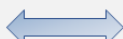
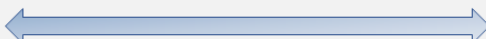
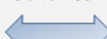

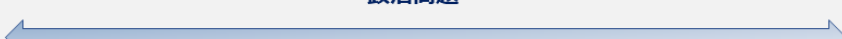
・積極的な運用を止めて安全性の高い資産へ資金を振り向けようとするため、債券価格が上昇（金利低下）しやすく、安全性の高い通貨の価値が高まる。株式市場も下落しやすい。また、前段で説明した低金利国で借入れをして、高金利国の金融資産等での運用を止めて、借入資金を返すような動きもある（キャリー取引の巻き戻し）

キャリー取引の巻き戻し

経済成長の高い国の株式や不動産を売却して、為替市場で借り入れた国の通貨に変換して借り入れていた資金（日本円）を返済し運用資産の減少を回避する。

※為替レートの変動がないと仮定した場合

主な相場の変動要因

	短期的	中期的	長期	超長期
	1日～1カ月	3カ月	1年～2年	3年超
	レンジ内での動きを予想	レンジ観の形成	大局的な動き	
景気動向	直近の経済指標 			
	GDPなど 			
	景気循環 			
	貿易収支 			
金融政策	引き締め・緩和 			
他市場の動き	リスクオン・オフ 			
	国債の発行計画 			
トピック	政治問題 			

債券価格と利回り

少し余談ですが、債券価格と利回りの関係をご存知ですか。すごく単純化して話せば、債券とは発行体が将来決まった金額、ここでは1口=100円で買い戻すことを約束して発行される手形のようなものです。

今、ある発行体が資金を集めるために、債券を発行しそれを1口=100円で販売したとします。このとき投資家が100円で購入したとすれば、投資家の利益は購入額-支払額（100-100円）はゼロで投資は成り立ちません。ですので、こうした債権を購入する投資家はまずおらず、発行体も資金を集めることが出来ません。

発行体は1口を100円以下で販売すれば、資金運用を考える投資家も購入メリットを感じて購入してくれます。

今、1口=98円で販売したら、投資家の運用利回りは

$$2.04\% = (100-98) / 98 \times 100$$

です。

流通市場でこの債券が取引されているとして、その時の値段が1口=96円になっているときに、購入した投資家の運用利回りは

$$4.17\% = (100-96) / 96 \times 100$$

となります。

（発行価格と流通価格は株式の新規公開株式（IPO）したときと同じイメージ）

逆に流通市での価格が1口=99円のときに購入した投資家の運用利回りは

$$1.01\% = (100-99) / 99 \times 100$$

になります。

この利回りの部分が債券利回りと呼ばれているものに相当し、特に国が発行する債券の利回りは、金利のベンチマークとなっています。ですので、債券価格（流通価格）が低下すれば、運用利回り（金利）が上昇し、反対に債券価格（流通価格）が上昇すれば、運用利回り（金利）が低下することになります。

債券（価格）上昇で金利低下、債券（価格）下落で金利上昇　継続的な利上げが見込まれる場合は当該国の通貨高、逆なら当該国の通貨安。

債券（価格）上昇で金利低下、債券（価格）下落で金利上昇

為替市場の特徴

為替市場は 24 時間動いている市場ですが、メインのプレーヤーごとに、アジア時間（市場）、欧州時間、北米時間の 3 つの時間帯に大別されます。日本時間でざっくり分ければ、8 時～15 時ぐらいがアジア時間、15 時～24 時ごろが欧州時間、21 時～翌午前 5 時 NY 時間となります。もっとも、時間帯が重なる部分もあり明確に区別できるわけではなく、東京時間と海外時間などと 2 つで考える方もいます。また、為替市場を見る上では、市場ごとの話題に着目する仕方もありますが、24 時間を通じた取引ですのでグローバルな金融市場全体でのテーマのような大きな話題や不安要素など、市場参加者の多くが気にかけているテーマをより抑えることが重要です。

アジア市場の 特徴と重要経 済指標

アジア市場は前日 NY 市場の流れが継続するかどうか、本邦の仲値需給はどうか、中国の人民元設定はどうか、オセアニアの金融政策はどうかなどです。午前 9 時半ごろから 10 時半ごろにかけては、本邦の仲値需給で円買いや円売りが持ち込まれたり、中国の人民元の設定が行われたりと、円や中国人民元を通じてオセアニア通貨の動意が期待できる時間帯です。仲値需給については、ゴトー日と呼ばれる 5・10 が付く日が企業の経理処理日に当たることが多いため注目されます。日本は輸入大国であるため、一般的には外貨買いフローが多いと言われますが、TEAM ハロonzの見方としては、貿易黒字が続いている場合はドルが売られ、貿易赤字が続いている場合はドルが買われるというイメージを持っています。

また、人民元については、歴史的な高値が続くような局面では人民元安誘導をしたり、その逆に歴史的安値が続いているような局面では通貨防衛のため人民元を高めに誘導したりします。相対的にドル安・ドル高となり、それによりドル円が振幅することもあります。また、また、開催時期は分かれています。11 時頃から 13 時ごろは豪州・NZ・日本の金融政策が発表されるため、そこでの決定内容も通貨の動意を誘います。どの国でも共通なのがタカ派な内容ならその国の通貨高、ハト派な内容ならその国の通貨安の流れとなります。タカ派・ハト派が明確になっているなら、流れに逆らわずにトレンドに追随することを第一義に考えます。

加えて、近頃は日銀の金融政策への感応度が増しているため、本邦の消費者物価指数や日銀買いオペ、日銀金融政策決定会合（総裁会見含む）から円主導で動く局面も多いです。何れにしても、金融政策関連はタカ派材料か、それともハト派材料を見分けて、仕掛けるかどうか考えています。

アジア市場での重要な経済イベント

日銀会合、年 8 回（2 日間）開催

豪準備銀行（RBA、中銀）理事会 年 8 回開催

NZ 準備銀行（RBNZ、中銀）理事会 年 7 回開催、原則 6-7 週ごと

欧州市場の特徴と重要経済指標

欧州市場の着目点はアジア時間の流れを引き継ぐかどうか、欧州各国の経済指標の結果はどうか、NY 勢と重なる時間はどうかとなります。アジア時間が前日 NY 時間の流れを引き継ぎ継いだ動きに縛られやすいのに対し、欧州時間に入り後は中東情勢のニュースが伝わったり、米国の政治・経済のタイトルが SNS 上で流れたりすることもあり、新たなトレンドの起点となることも多く、そこでの動きが当日のトレンドを決めることもあります。欧州序盤の市場動向の見極めは重要と考えます。

また、債券やスイスフランなど、独自材料で動きやすい通貨については、その国の経済指標や金融政策会合が重視されます。単純に指標の強弱と言うよりはその国の金融政策と結びつけて、タカ派材料なのか、ハト派材料なのかと考えたほうが、通貨の見通しが楽なときもあります。もっとも、単発の指標結果が当日のトレンドを形成しないときもあり、このときは欧州前半でその動きが収束して NY 勢の参入を待つ時間帯となりますので、全体的には序盤の動向を見極めることが重要ポイントと言えます。

欧州市場での重要な経済イベント

ECB（欧州中央銀行）理事会、開催は週間ごとに開催

BOE（イングランド銀行、英中銀）金融政策委員会、年 8 回開催

SNB（スイス国立銀行、スイス中銀）金融アセスメント 年 4 回開催

NY 市場の特徴と重要経済指標

NY 市場は米国の主要な経済指標が発表されるほか、ロンドンフィキシング（本邦の仲値需給の時間帯に似ている）に向けたフローはどうか、米国債の入札結果はどうだったかなどが着目されます。特に前半の時間は欧州市場の後半とも重なるため、1 日でもっとも活発に取引される時間帯と見られ、トレンドが出やすいと考えられています。NY 序盤は起債に関連した債券の需給から金利が変動し、それに合わせてドルもレベルが変わるなどして、為替市場に影響が波及することもあります。（夏時間は 21 時前後、冬時間は 22 時前後）。

ドル円は米長期金利（米 10 年債利回り）との相関関係が強く、米経済指標の結果を受けて、まず、米長期金利が反応し、その後ドル円が追随するイメージです。月末 1 週間前からはリバランスフローで動くイメージ。リバランスフロー予測は、該当月に株価堅調に推移していた場合は、リバランスフローは債券（米債）買いで、金利低下でドル売りのイメージです。逆に、該当月に株が軟調な場合は、リバランスフローは債券（米債）売りで、ドル買いのイメージです。月末最終日のロンドンフィキシングは実需フローから荒い値動き（特に欧州通貨）となるケースが多いようです。見方としては、通貨ペアごとに見るのではなく、米ドル対欧州通貨でどうなっているのか相対的な動きとして見る方が相場の流れが理解しやすいと感じています。また、NY 市場でのオプション権利行使の締め切り時間である NY オプションカットはほとんど気にしなくても良いレベルと感じています。

NY 市場での重要な経済イベント

FOMC（連邦公開市場委員会）、年 8 回開催

BOC（カナダ銀行、中銀）理事会

BOM（メキシコ中銀）

トレードルールの作成

取引するなら、勝ちたい、負けたくない考えるのは自然です。ですが、闇雲にやっても、成績が上がるとは到底思えません。投資家が勝てない理由として、ドル円を買った後、思惑通り上昇したら、適当なところで決済する一方、下落したら戻ってくるまで待ち、そして利益がでたら、適当なところで決済するのが正しい投資手法と勘違いしている点です。これは、勝率を上げることに執着しすぎて、利食いが早くなる一方、損切りが遅れ気味となり、大きく負けるリスクがあります。加えて、失敗を引きずるほか、意地になり損失を取り返そうとする投資家は、投資に向いていないと思います。

長く投資を続けている投資家は、少なくとも目的や取引ルール、動機、資産の管理方法などを含む包括的な青写真らしきものを持っているはずです。それらが頭の中にある人もいれば、ノートなどにまとめて書き出している人もいて形は様々ですが、明確にしていくことが取引を長期間続けるコツと考えます。

また、これらは人によってその目標や考え方が異なるほか、資金力なども違うため、他の人の計画をそのまま取り入れても上手くいかないこともあります。当初のものと時間が経った後で違ってくこともしばしばですが、それでもこれらがあるかないかでは、取引の進めやすさ、いざというときの判断、取引の継続性などが変わってきます。

いつ、どのように取引を実行すべきかの指針で、どの通貨ペアを取引するのか、利食い・損切りの判断をスムーズにすることが出来ます。事前に取引をイメージすることで、適正な市況が訪れるのを待ち、自身で設定した基準に従って取引を行えばよいことになります。

取引が容易になる

市場はほとんど動かない時から、大きく動くところまで様々な様相を見せ、投資家を翻弄します。その場の勢いによる感情的な判断をしてしまうこともあります。取引戦略に従って行動することで、そうしたミスを低減させ、取引の途中で不測の事態が発生したとしても対処しやすくなります。

取引における自身のルールの中には、そうした感情を少しでも抑制できるような工夫が必要なほか、ルールが厳しくても、緩くても上手くいきません。自身で無理なく守れ、かつ自身の衝動を抑制できるようなさじ加減が重要となります。

冷静な取引を保つ

規律のある投資家は長期的により大きな利益を得ることが多いと考えられています。合理的な取引計画を定め、規律に沿って行動していれば、規律の維持も容易で、より長期間取引を継続することが可能性です。何がうまくいって、何がうまくいかなかったかを記録に残すことができます。トレーダーとしてパフォーマンスを分析し、改善するのに有用です。

長期の取引を可能に

ルール作りは一朝一夕にはいきませんが、最低限守る事項だけを最初に作って、あとは無理なく調整するようにするのも一つです。また、ここまでやったらご褒美として、何かを購入するといった目標を決めるほか、予めリフレッシュタイムを設けるような工夫もありでしょう。

トレードルールの作成

- ・取引の指針を明確し、判断をスムーズにする
- ・冷静さを保ち不測の事態にも対応可能な心構えができる
- ・冷静沈着なら長期投資が可能

資金管理

取引にあたっての最重要課題は、資金を使い果たさないことと考えています。どんなに投資環境が良くても、その時に元手となる資金がなければ投資を行うことはできません。ですから、余分なポジションを減らして、余力を常に持たせておくことが大切です。ではどうすれば、資金を残しておくことができるのか。それには、資金管理やポジション管理を徹底することだと考えます。

資金管理のルールを決めていく手順としては、投資に使用できる資金量をまず決めて、利益はどの程度ほしいのか、損失はどの程度なら許容できるのか、そのためにはポジション数はどうすればよいのか、など全体から詳細を詰めていく感じです。

資金管理をする上で、有名な理論として、バルサラの破産確率があります。これは、損失許容率・勝率・ペイオフレシオ（リスクリワード）の3つをもとに、破産の可能性を求める理論です。

有名な例えとして、トランプ（ハート・ダイヤ・クラブ・スペード）よりスペードを引いた場合は、掛け金を没収するゲームで、スペード以外を引けば、掛け金2倍すると、勝率は75%となります。このゲームにおいて、資金100万のギャンブラーが1回の勝負で100万使ったら破産するリスクが高い一方、資金100万のギャンブラーが1回の勝負で1万ずつ使ったら破産する確率が0%となります。これは、投資に通じるものがあり、どんなに有利な勝負（手法）でも、1回あたりの掛け金を正しく設定しないと、破産の確率が高まることを意味しています。

TEAM ハロンズ

の例

TEAM ハロンズでの例を挙げておきます。

ハロンズでは、資金は 100 万円でスタートしていますので、1 日あたりの最大損失を 10 万円（投資元本の 1 割）までと決めています。ポジション量や最大保有可能ポジション量を決めています。10 万円までと決めているのは、それ以上の損失は取り返すまでに膨大な時間がかかると考えられるため、一度、考えや取引手法を大きく見直さなければいけないと思うからです。

また、1 回あたりの取引における損益については、利益と損失の兼ね合いは狙う期間や投資スタイルによって変わってきますが、利益とリスクの比が 1 以上となるように、取引開始のポイントや利食いや損切りのタイミングを設定します。また、1 回のトレードの損失のトータル（ドル円・ユーロドル）が次のトレードで挽回できるレベルに抑えることとしています。OCO 注文などで、予め利食いポイント・損切ポイントを入れることで、これを守れるようにしています。

また、両建てについて、一時的な損失拡大を防げるのがメリットですが、スプレッドコストは 2 倍となるほか、市場流動性が低下しやすい時間帯や、重要指標発表時になど相場が急変動するタイミングではスプレッドが広がり、最悪、ロスカットされる可能性もあります。経済的な合理性が低いため、あえて使わないようにしています。外為どっとコムとしても、両建ては推奨していません。

資金管理のルールを決める手順

1. 投資に使用できる資金量を決める

2. 利益はどの程度ほしいのか、損失はどの程度なら許容できるのか決める

3. 最大ポジション数を決める

4.1 回の取引当たりのポジション数を決める

5. 見直す

取引スタイル

取引スタイルは、投下資金や取引時間帯によって異なるために自身のトレード環境によって決める必要がありますが、どのくらいの時間を取引に費やすかでざっくり振り分けています。経済指標の結果を受けたセンチメントやプライスアクションでの短期売買、テクニカル分析ベースでのデイトレード、ファンダメンタルズを元にしたシングルトレードなどとしています。その時のプライスアクションを重視するほどポジションの保有時間は短く、ファンダメンタルズに基づく判断をするにはそれなりに時間が必要と考えるため、取引時間は長期になるケースが多いと思われます。

ただし、何れの場合も、入口と出口、つまりエントリーポイントとエグジットポイントのイメージを持つことがもともと大切です。ですので、実際にはプライスアクション、テクニカル、ファンダメンタルズを用いて、エントリーポイントとエグジットポイントのイメージをしっかりと作ってから、取引を開始すると言った方が良いのかもしれない。

短期取引

通常時の短期取引

短期売場については、テクニカルはそれほど重視せず、相場の流れや短期的な値動き（センチメント）に注力します。ポジションの保有時間は、数秒から数十分のイメージです。

相場の値動きから、方向性やどの程度まで動くのかを予めイメージして、それに沿って取引します。トレンドレスでレンジ相場の場合は、一定のレンジを想定してレンジの上側では売り、レンジの下側では買いで問題はありませんが、直近高値安値レベルをブレイクした場合は、想定を超えてきているため、一度立ち止まって利食い幅、損切り幅をチューニングするようにしています。また、スプレッドコストをプライスアクションが吸収できるかどうかを考慮しながら取引をすることも重要です。もし、チャートを使用しながら取引をするなら、1 分足、5 分足、10 分足が短期の値動きを把握しやすいと考えています。

・一定のレンジを想定してレンジ上下端で逆張り。レンジブレイクしたら、焦らず利食い幅、損切り幅をチューニング。

経済指標時の取引

米雇用統計や FOMC などの重要イベントでは、思惑と逆行した場合は損失が膨らみ取り返すのが難しくなりますので、指標発表後にトレンドフォロー（順張り）でついていくことをお勧めしています。YouTube 配信の番組上、発表前にポジションを持ちますが、発表後のプライスアクションが保有ポジションの思惑通りに進むとは限りませんので、イベント前にポジションテイクすることはお勧めしません。

指標発表後にトレンドフォロー（順張り）でついていく

指標取引の例：

TEAM ハロンズとしての指標トレードのやり方は、通常、米国の経済指標の際は、ドル円とユーロドルの 2 つで短期売買を行います。理由としては、①「時間的制約」です。番組中のみでの取引となりますので、時間に限りがあります。限られた時間内で最大のパフォーマンスを発揮するため、米経済指標の結果を受けてドル買いで反応した場合は、ドル円を買ってユーロドルを売り、それぞれ想定利益に達したら決済を繰り返して、利益を積み上げていきます。次は、②「ヘッジ」としての利用です。指標発表まえにポジションを持つ場合、思惑と逆行するリスクもありますので、自身の相場観から米経済指標の発表前にドル円の買いポジションを 10 ロット持った場合は、逆行リスクのヘッジでユーロドルを 5 ロット買ったりする場合があります。

デイトレード

デイトレードでは、プライスアクションよりはテクニカルを重視して、取引するようにしています。ポジション保有時間は、30分から数時間（当日のNYクローズまで）のイメージです。まずは、単純移動平均線（SMA）21本が上昇/下落しているかどうかでトレンドの有無を判断します。上昇トレンドが発生している場合は、21本SMAを実勢レートが上抜いたら新規買いのポイントでその後、実勢レートが21本SMAを下抜いたら決済ポイントとなります。

下落トレンドが発生している場合は、21本SMAを実勢レートが下抜いたら新規買いのポイントでその後、実勢レートが21本SMAを上抜いたら決済ポイントとなります。トレンドがないレンジ相場の場合は、21SMAを上抜いたら買いのポイント、その後直近高値近辺に近づいたら決済のポイントとなります。エンペーロールやボリンジャーバンドなどのトレンドフォロー系指標を利用することで決済ポイントをチャート上で視覚的に表示することもできます。

半日や1日程度の取引を考えるなら60分足、2時間足、4時間足がトレンドを把握しやすいと考えています。

米金利動向や金などと為替相場を見比べます。例えば、米金利低下ならドル安、米金利上昇ならドル高。金上昇ならドル安、金下落ならドル高といった具合です。

スイングトレード

スイングトレードでは、通貨ペアの該当国の金融政策の違いなどファンダメンタルズ的部分とテクニカル的部分を合わせて取引を行います。ポジション保有時間は、数日から数カ月のイメージです。為替差益はもちろん、スワップポイント目的でスイングトレードを行うこともあります。

ただ、スワップポイント目的のトレードで保有ポジションが思惑と逆行して評価損が発生したら本末転倒なので、スイングトレードを行うに当たっては通貨ペアのトレンドはしっかりと分析する必要があります。チャートを使用しながら、取引をする場合は、日足、週足、月足がトレンドを把握しやすいと考えています。

その通貨ペアの強弱を確認して売りが買いかを判断しますが、当然、トレンドが発生している通貨ペアを選択します。トレンドを見て取引をする場合は、上昇トレンドの場合は実勢レートが21日SMA/21週SMA/21月SMAを上抜いたら新規買いのポイントで、その後、実勢レートが21日SMA/21週SMA/21月SMAを下抜いたら決済のポイントとしています。

下落トレンドの場合は実勢レートが21日SMA/21週SMA/21月SMAを下抜いたら新規買いのポイントで、その後、実勢レートが21日SMA/21週SMA/21月SMAを上抜いたら決済のポイントとなります。当然、自身のトレードルールに基づいてトレードを行うために利食いポイント、損切りのポイントの設定は必須です。

・通貨ペアの該当国の金融政策などファンダメンタルズ的部分とテクニカル的部分を合わせてトレンド発生の通貨ペアを選択

FX 投資に興味はあるものの、「リスク」が怖くてなかなか手が出せないという投資家も多いのではないのでしょうか。そんな不安を抱いている方は、当社親会社で取り扱われている積立型『らくつむ』の利用も検討してみてください。

少額から始められ、投資初心者でもすぐになじめる設計となっております。

『らくつむ』は 100 円または 1 通貨から始められる外貨投資で、満期という概念がありませんので、外貨の買い増しや売却、購入額の変更も柔軟に対応できます。定期買付（毎日、毎週、毎月）の設定もできるので、買い付け忘れもなく、ドルコスト平均法で買い付けコストを低く押さえることも可能です。

ただ、ドルコスト平均法を行い長期保有すれば大丈夫かと言えば、そうでもありません。ドル平均コスト法は右肩下がりに下落が続けた場合、価値が下がり続ける中で購入数量が増えることになるため、ファンダメンタルズなどを考慮して、低下トレンドになりそうときには、1 回あたりの購入額を減らしたり、ポジションを少し決済して時間をおいてから新たに始めるなどの、リスクを回避しながらコストを下げる工夫をする必要があると思います。

実際に毎日 500 円程度の買い付けを行っていますが、評価損や証拠金不足を殆ど気にせずにスワップポイントを貯めることができています。FX 投資を始める前に、外貨運用の仕組みや特徴を確認する商品としても使用可能と考えます。

また、投資信託のように「運用は何かから何までプロにお任せ」のスタイルではなく、ご自身で運用プランを立てて、積立できることも『らくつむ』の面白さかもしれません。

・コスト平均法にファンダメンタルズを加味して、購入・売却額・時期などを調整

何れにしても、自身が納得できると思えた時に取引を開始するのが重要で、それまでは試行錯誤しながら検討を重ねるようにします。また、デモトレードを使用して、その効果を確かめるのも良いかもしれません。

これらを、踏まえながらご自身の取引ルールを構築し、それを守りながら、時に微調整しながら、自分に合ったルールや取引の方法を養っていくことが大切です。

※ルール作りの作成は一朝一夕にはいきませんが、最低限守る事項だけを最初に作って、あとは無理なく調整するようにするのも一つです。また、ここまでやったらご褒美として、何かを購入するといった目標を決めるほか、予めリフレッシュタイムを設けるような工夫もありでしょう。

主な通貨の特徴

●共通事項

通貨の関係性や値動きのクセは、ファンダメンタルズやテクニカル要因によって変化します。特に月末などは、企業が資金決済を行うための実需フローや、複数の金融商品にて分散投資する年金勢などのリバランスフローなどにより、不規則な値動きになることがあります。

●米ドル

ISOコード：USD

主な変動要因：

米国の金融政策、米ファンダメンタルズ、需給関係（ロンドンフィックス：日本時間 23 時『冬時間は同 24 時』、米国の格付けの動向、大統領選挙、地政学リスク、米中関係など

米ドルは「基軸通貨」と呼ばれ、世界の為替取引のうち 4 割以上に絡む取引量 1 位の通貨（国際決済銀行＝BIS 2022 年調査）。世界各国の外貨準備に占める割合も 6 割弱となり、「基軸通貨」の発行国には、為替リスクの低減や海外からの資金調達の容易化などメリットが多いとされます。一方、他国（非基軸通貨）にとっても、米ドルと自国通貨の交換だけで多くの国際的な決済が可能になるなど、メリットは少なくありません。なお、米ドルを「基軸通貨」とする取り決めは国際機関などに認定されたものではなく、暗黙の了解として成立したものです。

2020 年のコロナ禍で金利を 0.25%まで下げた後、供給連鎖の混乱によるインフレ対応で、段階的に利上げに踏み切り、FF 金利は 2023 年 7 月に 5.50%に達し、それ以後は金利を据え置いています。

（※2024 年 7 月時点）

●ユーロ

ISOコード：EUR

主な変動要因：

ユーロ圏の金融政策、ユーロ圏経済指標、南欧諸国の財政問題、地政学リスクなど

ユーロは欧州の単一通貨として 1999 年に誕生し、2002 年に流通が始まり、現在は、欧州連合（EU）加盟の 27 カ国中 20 カ国が使用する世界第 2 位の通貨で、取引シェアは 16%弱。経済状況が異なる国同士の通貨を統合するという世界初の取り組みに対して、「広域通貨」、「統合通貨」などとも呼ばれます。また、その経済圏の大きさや流通量の多さなどから、米ドルに次ぐ「基軸通貨」の候補として期待される事が多い。なお、2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻後は、地政学リスクを意識したユーロ売りが強まる場面もありました。欧州中央銀行（ECB）は、ユーロ安と物価高の是正に向けて 2014 年 6 月に導入したマイナス金利政策を 2022 年 7 月に終了し、中銀預金金利を 4.50%まで引き上げ、2024 年 6 月に 4.25%まで引き下げています。

●円

ISOコード：JPY

主な変動要因：

日本の金融政策、伸値需給（日本時間 9 時 55 分）、企業の M&A、地政学リスク、選挙など

世界の為替取引の 8%程度を占める世界第 3 位の通貨。円は「安全通貨」とされ、世界経済に悪影響が見込まれる「有事」の際に買われるケースが多かったが、2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻後は反対に円が売られるなど、有事の円買いは低減しています。世界的な物価高で、貿易赤字の定着などから日本の経常黒字が減少傾向にあるため、恒常的に円が売られやすい環境の中、2024 年 3 月には輸入物価の上昇や賃金上昇を受けて日銀がマイナス金利解除、イールドカーブ・コントロール（YCC）撤廃を決めました。同年 4 月に円は対ドル相場で 160.219 円まで下落しました。

●ポンド

ISO コード：GBP

主な変動要因：

英国の金融政策、英経済指標、英国の予算編成、選挙、欧州の政局など

ポンドは世界全体の為替売買の 6%強を占める取引量 4 位の通貨。第 2 次世界大戦以前は基軸通貨として君臨していたが、その後米ドルにその地位を譲っています。英国は、スウェーデンやデンマークと並んで EU に加盟しながら、ユーロを使用していない国の一つでしたが、2020 年 1 月末に EU から離脱。2020 年 12 月末には離脱の「移行期間」を終えて名実ともに EU 非加盟国となりました。なお、2016 年の EU 離脱に関する国民投票の開票時には、ポンドの対円相場がものの数時間のうちに 160 円台から 133 円まで下落するという空前絶後の値動きを演じるなど、値動きの荒さもポンドの大きな特徴と言えます。

●豪ドル

ISO コード：AUD

主な変動要因：

豪州の金融政策、豪経済指標、選挙、商品価格、中国・グローバル経済など

豪ドルは世界全体の為替取引の約 3%強を占める第 5 位の通貨で、愛称は「オージー」。豪州は鉄鉱石や石炭など鉱物資源の輸出が盛んな資源国でありながら、国債の格付けがトリプル A を誇る先進国で、資源輸出を通して中国と密接な関係にあることなどから豪ドルの値動きは新興国通貨に近く、リスク選好時に上昇しやすい反面、リスク回避時に下落する傾向があります。なお、2020 年のコロナ禍で豪州の政策金利は史上最低の 0.10%まで引き下げられたが、景気回復と物価高を背景に 2024 年 6 月時点で 4.35%まで金利が引き上げられています。金利高の影響もあって、豪ドルは対円相場で 2007 年以来 17 年ぶりに 106 円台まで上昇しました。

●カナダドル

ISO コード：CAD

主な変動要因：

カナダの金融政策、ファンダメンタルズ、原油価格、選挙、米国の政情など

世界全体の為替取引の 2.5%程度を占める第 6 位の通貨。カナダは世界第 3 位の石油埋蔵量を誇る資源大国であり、カナダドルの値動きは原油相場に連動しやすいです。2020 年 4 月に NY 原油先物（WTI）が一時マイナス価格を示現した際もカナダドル売りが強まった一方、カナダ経済と米国経済の結びつきの強さから、米ドルと同調しやすい先進国通貨としての一面も持ち合わせています。金融政策も米国の FRB に追随するケースが目立ち、カナダ中銀も 2022 年 3 月には金融引き締め（利上げ）を開始

しており、政策金利は 2023 年 7 月に 5.00%まで引き上げられました。ただ、2024 年 7 月時点では 4.50%まで金利は引き下げられています。

●スイスフラン

ISO コード : CHF

主な変動要因 :

スイスの金融政策、ファンダメンタルズ、ユーロ圏の政情など

世界全体の為替取引の 2.5%程度を占める第 7 位の通貨。スイスは、伝統的に低インフレかつ低金利の上に、経常黒字国であり軍事的永世中立国です。このため、スイスフラン＝「安全通貨」という評価が定着している。戦争・紛争のほか、世界的規模での経済的ショックが起きた際に「有事のスイスフラン買い」が強まる傾向があります。その結果、当局が市場でスイスフラン売り介入を行うケースも散見されるなど、日本円との類似点も多いです。もっとも、スイス中銀は 2022 年 6 月に 0.50%の大幅利上げ開始し、2023 年 6 月までに 1.75%まで利上げを実施しました。その後、コロナ通過で世界的なインフレが一服したため、利上げサイクルは終了し、2024 年 3 月に今度は利下げサイクルに突入しています。

●ニュージーランドドル

ISO コード : NZD

主な変動要因 :

ニュージーランドの金融政策、ファンダメンタルズ、ソフトコモディティ価格、世界経済など

世界全体の為替取引の 1%強を占める第 10 位の通貨で、愛称は国鳥にちなんで「キウイ」。ニュージーランドは、同じオセアニア地区にある旧英連邦圏の国として豪州と経済的・文化的な結び付きが強く、平時におけるニュージーランドドルは、豪ドルと連動する傾向があります。かつては高金利通貨として豪ドルとともに高い人気がありましたが、コロナ禍の 2020 年 3 月に 0.25%に引き下げられたことで、その人気も低下しました。しかし、同国の政策金利は、2024 年 5 月時点で 5.50%まで引き上げられており、ニュージーランドドルは高金利通貨としての地位を回復しつつあります。

●南アフリカランド

ISO コード : ZAR

主な変動要因 :

南アフリカの金融政策、資源価格、政治情勢など

世界全体の為替取引の 0.5%程度を占める第 17 位の通貨。南アフリカ共和国は金やプラチナの世界的な産地であり、通貨ランドはこれらの資源価格に連動しやすいというのが大きな特徴です。2001 年の調査では取引量第 13 位に入るなど、アフリカ有数の経済規模を誇る高金利通貨として一時人気を集めました。しかし、2020 年春のコロナ・ショックでは多くの主要通貨に対して過去最安値を更新して下落するなど脆弱性を露呈しました。2021 年以降の資源価格の上昇局面でランドも反発しています。ただ、電力量の改善で景気のダウンサイドリスクが緩和しているものの、電気問題が引き続きボトルネックとなり、ランドは対円相場で 8.9 円付近で伸び悩んでいます。

●トルコリラ

ISO コード : TRY

主な変動要因：

トルコの金融政策、ファンダメンタルズ、国内や中東情勢など

世界全体の為替取引の 0.5%程度を占める第 18 位の通貨。アジアとヨーロッパを繋ぐという立地の良さなどから、高成長・高金利の新興国通貨としてもはやされた時期もありましたが、度重なるテロ事件やクーデター騒動などで投資家の信頼度が低下。2018 年 8 月には米国との関係悪化を背景にリラが急落する「トルコ・ショック」が起きました。その後もリラ安基調が続き、2021 年にはリラ安の影響でインフレ率が高止まりする中にもかかわらず、エルドアン大統領がトルコ中銀に利下げ圧力をかけた事でさらにリラ安が進むという悪循環に陥りました。なお、同国のインフレ率は 2022 年 11 月時点で 85.51%に達したことを受けて、2024 年 5 月には 50.0%まで利上げされました。

●中国人民元

ISO コード：CNY

主な変動要因：

中国の金融政策、ファンダメンタルズ、米国との通商問題

世界全体の為替取引の 2%を占める第 8 位の通貨。2001 年の調査では取引シェアが 0.1%以下（第 35 位）に過ぎない「マイナーカレンシー」だったが、中国の経済成長と歩調を合わせて年々順位を上げ、2016 年にはベスト 10 入りを果たしました。なお、中国は 2005 年から「管理フロート制」を採用しており、当日朝に当局が発表する基準値の±2%以内に人民元相場の値幅を制限しています。人民元には「オンショア」と「オフショア」という 2 つの相場が存在するのが特徴で、上記の管理フロート制は中国本土で取引される「オンショア人民元」に適用されます。こうした規制を受けない「オフショア人民元」は香港市場を中心に取引されます。

●メキシコペソ

ISO コード：MXN

主な変動要因：

メキシコの金融政策、ファンダメンタルズ、米国経済、北米の政情など

世界全体の為替取引の 0.8%程度を占める第 14 位の通貨。メキシコは、石油などの天然資源を豊富に有する資源国である事から、メキシコペソは資源価格の動きに同調しやすいです。また、国境を接する米国の影響を良くも悪くも受けやすく、2016 年の米大統領選でメキシコ国境の壁建設などを公約に掲げるトランプ大統領が当選した際は、ペソが急落しました。その他、2020 年春のコロナ・ショックでは基軸通貨である米ドルに資金が集中する中、ペソは対ドルで史上最安値を更新しましたが、その後は先進国の金融緩和や流動性供給によりグローバルなインフレから 2023 年 4 月までに 11.25%まで金利を引き上げました。また、足許では外国へ出稼ぎに出たメキシコ人からの本国への仕送りも、メキシコペソ高を支えています。ただ、2024 年 6 月 2 日の総選挙で司法改革などに積極的な与党連合政権が誕生したためメキシコペソが急落するなど、政治的不安定が意識され始めています。

Q&A

X (Twitter) のフォロワーさんや YouTube ライブ配信の参加者からのご質問への返答 (回答者は黒川氏)

Q1 : 為替市場を見る前にまずすることは？

A : 1 日の流れのざっくり抑える。

前日の値動きや、アジア市場、欧州市場、NY 市場でのイベントを整理。

Q2 : アジア市場の特徴は？

A : 前日 NY 市場の流れが継続しやすい。中国の経済指標でオセアニア通貨の振幅が期待できる。最近では本邦の消費者物価指数や日銀買いオペ、日銀金融政策決定会合（総裁会見含む）など円主導で動くときも。

Q3 : ゴトー日の実需フローはどう判断？

A : フロー自体はその時になってみないと分かりませんが、貿易黒字が積みあがっている場合は仲値に向けてドル売り優勢、貿易赤字が続いている場合はドル買いと、大まかに予想しています。

Q4 : 欧州市場の特徴は？

A : アジア時間の流れを引き継ぐかどうかまずは見極め。経験則では、欧州時間に入り欧州勢の参入後は東京時間とは全く逆の値動きとなることが多いように感じる（ロンドン市場がトレンドの起点となるイメージ）。

Q5 : NY 市場の特徴は？

A : 全体的に取引に厚みがあって、トレンドが出やすく値幅も期待できるイメージ。

Q6 : NY 市場での留意点は？

A : 起債のニュース、米経済指標の結果、FED 要人発言の内容、リバンスフロー、ロンドンフィキシング。

Q7 : 起債のニュースに絡んだ動きとは？

A : 起債のニュースに絡んで米長期金利の上昇を受けてドル買いが起こるかどうか見極め。（夏時間は 21 時前後、冬時間は 22 時前後）。

Q8：米経済指標の受け止め方は？

A：米経済指標が市場予想より強い場合、米金利上昇にドル円が追随するイメージ。逆なら、米金利低下にドル円が追随するイメージ。

Q10：ロンドンフィキシングでのポイントは？

A：実需フローは月末最終日のロンドンフィキシングで荒い値動き（特に欧州通貨）。

米ドルは、欧州通貨の相対的な動きの感じ。

Q11：NY オプションカットって何？

A：ニューヨーク市場でのオプション権利行使の締め切り時間のことで、夏時間は日本時間 23 時、冬時間は 24 時です。ただ、TEAM ハロンズとしては、オプションカットはまったく気にしていない。

Q12：経済指標はすべて追う必要がありますか？

A：マーケットで重要と言われるものだけを追っています。

テクニカル

Q13：ローソク足は何分足を使いますか？

A：1 時間足を中心にしていますが、短期売買を行う際には、5 分足など短い期間のローソク足を参考にしています。

Q14：よく使用するテクニカルを教えてください？

A：トレンドを見る際は 21 日 SMA を使います。また、スローストキャスティクスは方向性の勢いを見る際に参考にしています。

Q15：上がる・下がるはどうやって判断するの？

A：21 日 SMA が上昇/下落しているかどうかでトレンドの有無を判断しています。

トレンド転換時は、ニュートラルから上昇トレンド。下落トレンドの場合は、サポートラインブレイク時、上昇トレンド/下落トレンドからトレンド反転の場合、天井/底付近で寄り引き同時線で発生している場合、などです。

取引手法

Q16：資金管理ってどうしていますか？

A：OCO 注文などで、予め利食いポイント・損切りポイントを入れて、1 回の取引でダメージを受けないようなポジション数や損失額に抑えるようにしています。

Q17：リスクとリワードの決め方は？

A：トレードでリスクリワードの比率を最低 1 対 1（リスク≦リワード）以上に設定

Q18：損切りはどうやって判断するの？

A：日々の損失額は 1 日で自分の取引で取り返せると思われる金額内に収めるようにしています。

Q19：エントリーポイントはどうやって決めるの？

A：・トレンドレスなら、レジスタンスライン/サポートラインがエントリーポイント

・トレンド発生なら、サポートラインでの反発時点、レジスタンスラインでの反転時点

Q20：エグジットポイントはどうやって決めるの？

A：トレンド発生なら、上昇トレンド時は、実勢レートが 21SMA を上抜いた時点。下落トレンドなら実勢レートが 21SMA を下抜いた時点。

Q21：インジケーターには何を使いますか？

A：米金利動向や金などと為替相場を見比べます。例えば、米金利低下ならドル安、米金利上昇ならドル高。金上昇ならドル安、金下落ならドル高といった具合

Q22：指標トレードのやり方は？

A：該当経済指標の過去のプライスアクションを考察して事前に値動きをイメージ。実際のプライスアクションを見て、順張りトレードか逆張りトレードかの戦略を練る。

Q23：難平（ナンピン）はしないの？

A：マーケットにトレンドがなくレンジ相場の場合や指標トレードで該当経済指標の過去のプライスアクションで全戻し（指標発表直後には反応するが、結局発表前の水準に戻る）が多い場合は、頻繁に利用する。ただ、ナンピンはポジションが大きくなり、相場が逆行する場合は、評価損も大きくなるので、利食いのタイミング、損切りのタイミング等のトレードルールを厳守すること。

※ナンピンとはポジション保有時に相場が逆行した際に、ナンピン買いなら平均コストが下がり、ナンピン売りなら平均コストが上がり、含み損を解消しやすくなる。

Q24：『らくらく FX 積立』はどうやって使えばいいの？

A：『らくらく FX 積立』は 100 円または 1 通貨から始められる外貨投資ですが、外貨をお手軽にスタートできる感じがあります。

●免責事項

本資料は情報には十分に注意を払っていますが、その内容について保証するものではありません。また本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本資料の閲覧によって生じたいかなる損害につきましても、株式会社外為どっとコム総合研究所は一切の責任を負いかねますことをご了承ください。

会社概要

株式会社外為どっとコム総合研究所

〒105-0021

東京都港区東新橋 2 丁目 8-1 パラッチョアステック 3 階

HP : <https://gaitamesk.com>

お問い合わせ先 : URL: <https://gaitamesk.com/inq/>